



伊藤 堇 (いとう すみれ) 松枝小 6年生

作品名：動物と人間と

図 書：いのちの花

私は「いのちの花」という本を読みました。なぜこの本を選んだのかというと、「いのちの花」がどういうものか気になったからです。

この物語は、青森県の農業高校生の真実の物語です。この学校の生徒たちは、人間の身勝手な理由で殺処分される犬猫たちをなくしたいと思い、「いのちの花プロジェクト」という活動を始めました。犬猫の骨を肥料にして、花を育てるとい活動です。この活動に、高校生たちが一生懸命取り組みます。

私はこの本を読んで、いくつかのことにショックを受けました。一つ目は、年間十万頭以上の犬や猫が、人間の身勝手な理由で殺処分されているということです。私たち人間は、牛や豚、鶏などを殺して食べたり、動物を殺してかわや毛皮をはがし、衣服として利用しています。これらの動物たちは、人間が生きるために殺して利用されています。

しかし、殺処分施設の動物は人間が飼いたくて飼ったのに身勝手な理由で捨てられ、何の目的もなく命を奪われているのです。しかも、殺処分は税金で行われています。

私は、なんで殺処分をするんだろうと思いました。人間が自分で飼いたいと思って飼ったのに、人間の身勝手な理由で命を捨てるなんてすごく自分勝手だと思いました。人間も動物も命の重さに変わりはありません。殺されるとわかって生きる犬と猫の気持ちを考えると、とても悲しいです。

それに、「自分たちは今まで普通に生きてきて幸せなのに、その幸せに気づけず、不満や愚痴をこぼしている。言葉を使うことができるからだ。

でも、動物たちは言葉を話すことができず、不安な気持ちを伝えられないまま、いきなり命を絶たれていた。こんな理不尽なことがあるだろうか？ 生きたくても生きられず、そんなことを考えてもみない人間に命を奪われるなんて、こんなくやしいことがあるだろうか？」という文に、強く心を打たれました。動物がしゃべれないのはしかたないけど、人間と動物にちがいがあすぎると思いました。多くの人間が、自分の好きなことをして、言葉を話せて、さらには悪口を言ったりしてすごくぜいたくだなと思いました。

そんな人間と比べて犬と猫は、人間に捨てられ、そして言葉を話すことができないから「助けて」ということもできなくて、そのまま殺されてしまい

ます。

ショックを受けたこと二つ目は、処分された犬や猫の骨は、ゴミとして扱われ、捨てられているということです。人間だったら埋葬されて土にかえることができるけど、処分された犬や猫の骨は、次がないゴミとして捨てられてしまうのです。

そんな不幸な動物たちを「かわいそう」の一言でまとめることはできません。この辛い現実を放っておいていいのでしょうか？いいわけがありません。今、世間は猫ブームのようですが、猫を飼いたいと思っている人には、命の大切さを知り、しっかりと責任をもった上で飼ってほしいと思いました。もちろん、犬やうさぎなど他の動物でも同じです。

最後に、いつか殺処分がなくなって、幸せな動物しかいない状態になればいいなと心からそう思いました。